

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
212
213
214
215
216
217
218
219
220
221
222
223
224
225
226
227
228
229
230
231
232
233
234
235
236
237
238
239
240
241
242
243
244
245
246
247
248
249
250
251
252
253
254
255
256
257
258
259
260
261
262
263
264
265
266
267
268
269
270
271
272
273
274
275
276
277
278
279
280
281
282
283
284
285
286
287
288
289
290
291
292
293
294
295
296
297
298
299
300
301
302
303
304
305
306
307
308
309
310
311
312
313
314
315
316
317
318
319
320
321
322
323
324
325
326
327
328
329
330
331
332
333
334
335
336
337
338
339
340
341
342
343
344
345
346
347
348
349
350
351
352
353
354
355
356
357
358
359
360
361
362
363
364
365
366
367
368
369
370
371
372
373
374
375
376
377
378
379
380
381
382
383
384
385
386
387
388
389
390
391
392
393
394
395
396
397
398
399
400
401
402
403
404
405
406
407
408
409
410
411
412
413
414
415
416
417
418
419
420
421
422
423
424
425
426
427
428
429
430
431
432
433
434
435
436
437
438
439
440
441
442
443
444
445
446
447
448
449
450
451
452
453
454
455
456
457
458
459
460
461
462
463
464
465
466
467
468
469
470
471
472
473
474
475
476
477
478
479
480
481
482
483
484
485
486
487
488
489
490
491
492
493
494
495
496
497
498
499
500
501
502
503
504
505
506
507
508
509
510
511
512
513
514
515
516
517
518
519
520
521
522
523
524
525
526
527
528
529
530
531
532
533
534
535
536
537
538
539
540
541
542
543
544
545
546
547
548
549
550
551
552
553
554
555
556
557
558
559
560
561
562
563
564
565
566
567
568
569
570
571
572
573
574
575
576
577
578
579
580
581
582
583
584
585
586
587
588
589
590
591
592
593
594
595
596
597
598
599
600
601
602
603
604
605
606
607
608
609
610
611
612
613
614
615
616
617
618
619
620
621
622
623
624
625
626
627
628
629
630
631
632
633
634
635
636
637
638
639
640
641
642
643
644
645
646
647
648
649
650
651
652
653
654
655
656
657
658
659
660
661
662
663
664
665
666
667
668
669
670
671
672
673
674
675
676
677
678
679
680
681
682
683
684
685
686
687
688
689
690
691
692
693
694
695
696
697
698
699
700
701
702
703
704
705
706
707
708
709
710
711
712
713
714
715
716
717
718
719
720
721
722
723
724
725
726
727
728
729
730
731
732
733
734
735
736
737
738
739
740
741
742
743
744
745
746
747
748
749
750
751
752
753
754
755
756
757
758
759
760
761
762
763
764
765
766
767
768
769
770
771
772
773
774
775
776
777
778
779
780
781
782
783
784
785
786
787
788
789
790
791
792
793
794
795
796
797
798
799
800
801
802
803
804
805
806
807
808
809
810
811
812
813
814
815
816
817
818
819
820
821
822
823
824
825
826
827
828
829
830
831
832
833
834
835
836
837
838
839
840
841
842
843
844
845
846
847
848
849
850
851
852
853
854
855
856
857
858
859
860
861
862
863
864
865
866
867
868
869
870
871
872
873
874
875
876
877
878
879
880
881
882
883
884
885
886
887
888
889
890
891
892
893
894
895
896
897
898
899
900
901
902
903
904
905
906
907
908
909
910
911
912
913
914
915
916
917
918
919
920
921
922
923
924
925
926
927
928
929
930
931
932
933
934
935
936
937
938
939
940
941
942
943
944
945
946
947
948
949
950
951
952
953
954
955
956
957
958
959
960
961
962
963
964
965
966
967
968
969
970
971
972
973
974
975
976
977
978
979
980
981
982
983
984
985
986
987
988
989
990
991
992
993
994
995
996
997
998
999
1000

信頼を回復した 「開かれた学校づくり」を目指して

◁ ◁ 京都市新世紀教育改革プロジェクト
「学校評価部会」中間まとめ ▷ ▷

平成14年4月
京都市教育委員会

この冊子は再生紙を使用しています。

目次

1 はじめに	1
2 学校評価についての基本的な考え方	2
(1) 学校評価の目的	
(2) 学校評価の対象	
(3) 学校評価の実施	
(4) 学校評価の評価者	
3 学校評価の今日的な役割	4
(1) 特色ある学校づくり	
(2) 学校の主体性・自律性の確保	
(3) 「開かれた学校づくり」と説明責任	
4 学校評価を進める上での留意点	5
(1) 教職員の共通理解	
(2) 目的の設定	
(3) 校内体制の整備	
5 自己評価の実施にあたって	7
(1) 評価項目の作成	
(2) 評価結果と分析	
6 外部評価の実施にあたって	8
(1) 外部評価の必要性	
(2) 情報発信と外部評価	
(3) 外部評価の形態	
(4) 外部評価項目の作成	
(5) 外部評価結果の発信	
[参考資料]	12
1 学校評価を求める動き	
2 京都市立小・中学校 学校評価参考例(案)	
3 学校評価システム基本図(案)	
4 実践研究協力校の取組の概要	

1 はじめに

今回の教育改革の理念は、学校・家庭・地域が教育に果たすそれぞれの役割を見直すとともに、教育力を高めつつ連携・協力し、地域ぐるみの教育を推進してこそ実現するものである。

このため、本市においては、学校が地域活動の拠点となり、地域ぐるみで子どもたちの育成を進めてきた教育風土のもと、学校評議員制度の全校実施をはじめ「開かれた学校づくり」の先進的な取組を進めており、子どもたちの豊かな成長を目指す学校づくり、家庭・地域づくりに大きな成果をあげている。

今日、学校評価は、こうした「開かれた学校づくり」の成果をさらに発展させることを目指さなければならない。

学校が、家庭・地域への働きかけを含めた各校の教育活動についての達成状況と課題を明らかにする「自己評価」とともに、その結果を家庭・地域に説明しつつ保護者や地域の声を学校運営に反映させる「外部評価」を計画的に行うシステムとしての学校評価の実施である。

同時に、この双方向の営みを通して、子どもたちの現状・課題を共有しながら、学校・家庭・地域がそれぞれの教育のあり方を見直し、家庭・地域が学校を高め、学校が家庭・地域を高める関係を学校評議員制度との両輪により構築していかなければならない。

もとより、これまでからも、年度末や学期末において教職員の反省という形での「自己評価」、また、学級懇談会や個人懇談、PTAや地域諸団体の会合などの場で意見を聞くという形での「外部評価」は行われてきている。

各校は、こうした取組の現状を肯定することなく、学校・家庭・地域の双方向の信頼・連携で結ばれた確固たる関係の構築と、一人ひとりの子どもたちを大切に教育活動の創造に向け、それぞれの教育課題や子どもたちの実態、地域の状況に応じた学校評価を実施していかなければならない。

本冊子は、平成15年度からの学校評価システムの全校での実施を目指し、各校での具体的な取組や研修・研究の推進を図るため、実践研究協力校での取組と京都市新世紀教育改革プロジェクト「学校評価部会」における協議内容を現時点で総括し、中間まとめとしたものである。

2 学校評価についての基本的な考え方

(1) 学校評価の目的

学校教育活動は学校教育目標の実現を目指す営みである。その充実・向上を図り、学校教育目標の実現をより確かなものとしていくためには、学校教育活動の成果と改善すべき課題を明確にするとともに、家庭・地域の課題も含め、その解決の方策を構築していくことが重要である。

学校評価の目的は、学校自らが、それぞれの学校教育目標の達成状況を子どもたちの実態のうえにたって、学校総体・教職員一人ひとりの段階で明らかにし、その結果を学校教育活動の充実・向上につなげていくことにある。

(2) 学校評価の対象

学校は子どもたちの豊かで健やかな成長を目指す各校の教育方針のもとに一体となり、学校教育目標の実現に向けた組織的・有機的な機能を発揮することが必要である。

このため、学校評価は、教育課程の編成とその実施状況にとどまらず、家庭・地域や関係諸機関との連携、また、校務分掌や校内研修・研究、予算編成や執行、施設・設備の管理など、学校が行うすべての活動を対象にして行われるべきである。

もとより、学校教育活動の中核は日々の授業である。学校が自らの教育課程の実施状況を点検し、その結果に基づき教育課程や指導計画、指導方法等を見直して改善していくことは、学校が担うべき基本的機能であり、同時に教員の職務である。

教育課程の編成と実施に関わる評価については、子どもたちの変容やつまずきなどを明らかにする学習評価を通して行う教職員一人ひとりの自己点検の積み重ねが不可欠であり、学校評価は、こうした日々の取組と一体となって進めることが重要である。

(3) 学校評価の実施

評価項目は学校教育活動の全般にわたることになる。しかし、そのすべてを網羅的に列挙して評価するのではなく、各校の教育目標や特色、子どもたちの課題などに応じて精選するとともに、年度ごとに見直していくことが必要である。

また、年1回の評価を行うといった方法は学校評価の目的を達成していくうえで有効とはいえない。むしろ、年1回の慣例として形骸化する恐れすらある。

このため、評価項目の内容に応じて評価する時期や評価者を年間を通して計画的に配置し、年度内での教育活動の充実・改善を図るなど、即効性と柔軟性を発揮することが必要である。その際には、過去の状況との比較をふまえた評価結果の分析を行うなど、1年ごとの個々の取組ではなく、継続性のある学校評価としていくことが重要である。

(4) 学校評価の評価者

学校評価にまず求められるのは、教職員による「自己評価」を通じた公教育の担い手としての「行為責任」の明確化である。

公教育は、子どもたちや保護者、市民の信頼により成り立ち、その結果について責任を負うべき立場にあるとの自覚に基づき、学校はその主体性と自律性のもと、「自己評価」に取り組まなければならない。

また、学校評価は、保護者や地域の方などの「外部評価」を含むものである。

「外部評価」は、学校の「自己評価」に客観性を持たせるとともに、その評価を通して、保護者や地域の方の教育への関心を高めつつ、学校運営への参画を促進していくものである。同時に、家庭・地域が教育に果たす役割についての認識を高め、学校・家庭・地域の役割を明確にしなが、地域ぐるみの人づくりの取組を推進していく観点から取り組まなければならない。

3 学校評価の今日的な役割

(1) 特色ある学校づくり

今日、学校には、画一的・形式的な平等から違いを認め合い個を尊重する教育への転換を図り、子どもたちが自らの可能性を最大限に発揮できる力を育成することが求められている。

そのためには、いわゆる「横並びの学校」といわれる現状や教え込み中心の授業、「学級王国」と呼ばれる状況を克服し、子どもたちのよさや可能性を積極的に引き出し、伸ばさせることを目指した創意工夫ある教育活動を展開することが必要である。

学校評価は、こうした教育改革の目指す方向と軌を一にして取り組まれるべきものである。従って、それぞれの学校において、子どもたちや地域の実態及びそれをふまえた特色ある学校づくりを推進する見地から一人ひとりの子どもたちを大切に教育活動の創造を目指して実施すべきものであり、決して、統一的な評価項目によって学校を序列化するものではない。

(2) 学校の主体性・自律性の確保

今日、授業時間の弾力化や選択教科の時間数・教科枠の拡大、さらには、「総合的な学習の時間」の実施など、学校教育活動における学校の裁量権が拡大されており、また、学校と教育委員会との関係においても、学校の管理運営についての裁量権の拡大が図られてきている。

こうした見直しは、学校がそれぞれの教育理念・教育方針に基づき、子どもたちの課題や地域の状況に応じた特色ある教育課程を編成・実践するなど、自主的・自律的な学校運営をこれまで以上に可能とするものである。

しかし、裁量権の拡大は責任の拡大と表裏一体をなすものであり、教育改革が意図する自主的・自律的な学校運営の確保は、学校の「説明責任」と「行為責任」の明確化を求めるものである。

(3) 「開かれた学校づくり」と説明責任

今日、学校・家庭・地域の連携・協力による地域ぐるみの教育に向け、「開かれた学校づくり」が進められている。しかし、「開かれた学校づくり」は学校施設の開放や学校教育活動の説明、学校教育活動への支援などの取組を最終の目的とするものではない。

「開かれた学校づくり」は、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たしつつ連携・協力し、その結びつきを強めるなかで地域ぐるみの教育のさらなる充実を目指すものである。

その基盤を構築するのは学校への信頼に他ならず、学校は、保護者や地域の教育への期待を受け止め、学校教育目標や教育計画、具体的な取組の実施状況、さらには、改善すべき課題とその解決の方策及び家庭・地域に求める課題を説明し、その評価を得ていくことが必要である。

4 学校評価を進める上での留意点

(1) 教職員の共通理解

学校評価を実効性あるものにしていくためには、学校評価の目的・内容はもちろんのこと、なによりも、学校評価の今日的な役割を教職員一人ひとりが十分に理解することが必要である。その際には、「なぜその評価項目を設定したのか」「評価を行うときの基準」などについても共通理解するとともに、教職員一人ひとりが評価の主体であり同時に客体でもあるとの認識を確立することが重要である。

(2) 目的の設定

学校評価は学校教育活動の充実・改善を目指すものである。その際には、学校評価の実施を通して、学校としての改革や充実していくべき課題などを明らかにし、教職員一人ひとりが目的意識を持って取り組んでいくことが必要である。

【 実践研究協力校が設定している目的 】

自己評価

- ① 教育改革推進に向けた組織改革につなげていく。
- ② 教職員一人ひとりが担う役割についての責任感や学校運営の主体者であるとの自覚を高める。
- ③ 計画・実践・評価・見直しのサイクルを年間通して実施し、進捗状況の把握と修正を迅速に行う。
- ④ 学校教育目標を実現するうえでの課題を焦点化し、その克服に向け協働体制で取り組む。

外部評価

- ① 子どもの課題をより多面的・具体的に把握する契機とする。
- ② 育むべき子ども像を共有し、家庭・地域の役割についての認識を高める。
- ③ 学校からの情報発信のあり方を見直し、学校の取組への関心を高める。
- ④ 保護者や地域の願い・期待を把握することを通して、地域の学校としての責任を明確にする。

(3) 校内体制の整備

学校評価は校務を司る校長の権限と責任において行われるべきものである。しかし、その目的や内容を共通理解し、また、学校評価の結果を全教職員のものとしていくためには、学校長を中心として学校評価の企画・立案、結果の分析と課題・改善策の明確化などを行う校内体制を確立していくことが必要である。

【 実践研究協力校における体制 】

[A 小学校]

企画・立案	教務部
↓	↓
検討	企画運営委員会
↓	↓
共通理解	職員会議
↓	↓
実施	教務部
↓	↓
集計・分析	各校務分掌
↓	↓
改善策	

[B 小学校]

評価項目の作成	各校務分掌
↓	↓
評価票の作成	教務部
↓	↓
実施	教務部
↓	↓
集計	各校務分掌
↓	↓
分析・改善策	

5 自己評価の実施にあたって

(1) 評価項目の作成

評価項目の作成に当たっては、評価対象の整理とその評価対象をどの側面から評価するのか、いわば評価の観点の決定がまず必要である。

各校においては、それぞれの教育目標や課題、子どもたちの実態などに応じた学校評価となるよう、評価対象と観点及び複数の評価の視点を作成するとともに、校内での研修を通して共通理解を図ることが必要である。

参考資料として掲載している「京都市立小・中学校、学校評価参考例(案)」(以下「参考例」)では、学校評価を行うに際しての評価対象を、それぞれの評価の観点とともに「教育課程の編成と実施」で10項目、「教育課程の編成と実施を支える諸条件」で7項目を例示している。

「参考例」の「教育課程の編成と実施」では評価項目を3つの視点から作成している。第一は「教職員が学校の組織としての機能の達成度を評価する視点」であり、第二が「教職員が自らの役割・職務を果たしているかを評価する視点」である。第三は「子どもたちの実態に照らして評価する視点」である。

「子どもたちの実態に照らしての評価」が、「教職員が役割・職務を果たしているかの評価」に客観性を持たせることにつながり、さらに、その結果が「学校の組織としての機能の達成度の評価」に客観性を持たせることにつながることを十分に認識し、学校評価の年間実施計画を策定していくことが必要である。

(2) 評価結果と分析

評価結果は、「できている」なら「どの程度できているのか」「できていない」なら「どの程度できていないのか」を明らかにするものである。従って、評価項目の達成度を測定する評価の判断基準については、他の学校や教職員との比較でないことは当然である。

評価結果の分析は、いうまでもなく数値の集計を意図するものではない。集計された数値結果をもとに、「なぜその状況にあるのか」も含め、達成できていることや有効に機能していない状況を導きだすものである。

例えば、十分に達成できた原動力や十分に機能していなかった要因などを協議・検討し、改善及び充実に向けた方策へつなげていかなければならない。そのためにも、「なぜそのような評価を行ったのか」その根拠や理由を明らかにする記述欄を併用することが有効であり、また、このことを通して、評価の判断基準についての教職員の共通認識を形成することが必要である。

なお、実践研究協力校では次のような表記により、評価結果を明らかにしているが、判断基準が3段階より4段階の方が評価結果が明確になると考察している実践研究協力校もある。

【 実践研究協力校における表記 】	
[C小学校]	[D小学校]
4 できている	A よくできている
3 どちらかといえばできている	B おおむねできている
2 どちらかといえばできていない	C 不十分である
1 できていない	

6 外部評価の実施にあたって

(1) 外部評価の必要性

学校が主体性を発揮し、「特色ある学校づくり」や「開かれた学校づくり」の推進などの今日的な課題を達成していくうえで、学校評議員や保護者・地域の方の意見を学校運営に反映させる取組の推進が求められている。

公教育の役割をより明確にし、教育活動に対する客観的な評価結果や具体的な改善点、改善の方策を得るうえで、保護者・地域の教育に対する熱意や意見、また、学校教育活動についての理解をどれだけ得ているのかを的確に把握することが欠かすことのできない課題である。

また、このことを通して、学校がこれまで以上に家庭・地域に開かれた存在となるとともに、学校の目指す方向や取組の状況についての理解を得て、双方向の信頼を築き、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たすなかで連携・協力し、地域ぐるみの教育を推進していかなければならない。

(2) 情報発信と外部評価

学校評議員を含む保護者・地域の方などから、より客観的な評価を得ていくための鍵は学校からの説明と情報発信による「説明責任」の遂行にある。学校が評価者に対して、評価項目に関する情報を適切に提供していなければ、評価者は「評価不能」という事態に陥ったり、曖昧な判断や誤った評価を行うことになる。

本市においては、これまでからも、学校だよりの地域回覧や掲示、学校のホームページの開設、普段着の学校の様子を家庭・地域に公開する「自由参観日」などの取組を進めている。

今後においては、「外部評価」を通して、こうした取組が学校からの情報発信の目的をどの程度達成しているのかを把握し、充実を図っていくことが必要である。

(3) 外部評価の形態

「外部評価」の実施に当たっては、例えば、次のように様々な方法と場面、そして評価者が想定される。

- ① 評価項目を保護者等へ「アンケート形式」で配付・回収し、意見を集約する。
- ② 学校の「自己評価」結果を説明したうえで記述や口頭での意見を集約する。
- ③ 「自己評価」と「外部評価」の両方の結果を学校評議員やPTAの方に説明し意見を集約する。

どの形態をいつ誰に行うかは各校が主体的に決定していくべきことであるが、一つの形態のみではなく、また、学校が評価を依頼する目的や意図について保護者や地域の理解を得ながら、できるだけ広く・多様な「外部評価」を行うことが望ましいことは言うまでもない。

(4) 外部評価項目の作成

評価を得る項目については、厳選していくことが必要である。余りにも項目が多ければ、そのこと自体で評価する意欲を減退させてしまうことになる。

① 評価者に応じた評価項目

保護者と地域の方では、有している学校情報の種類と量、さらには学校教育、子どもたちの教育に対する関心や期待の範囲は必ずしも一様でない。

例えば、保護者は「子どもたちは楽しく学校に行っていますか」というような子どもたちの様子や成長についての評価項目には答えやすいが、地域の方は答え難い。また、「わかりやすい授業を展開している」とか「健康・安全に十分に配慮している」といった評価項目は、実際に学校での教育活動を見聞しなければ、保護者でも容易に判断できず、地域の方にとってはなおさらである。

② 焦点化・集中化と具体化

評価項目を重点的な取組や特色ある取組などに絞りこむ焦点化・集中化を行うことが有効であるが、あまりに抽象的な項目を網羅することは「評価不能」や曖昧な判断結果を生み出すことになる。

例えば、「開かれた学校づくりを進めている」といった評価項目では、「開かれた学校づくり」に対する個々のイメージに違いがあるのは当然であり、情報発信や施設開放、地域活動との連携など、具体的な取組への評価を得ていかなければ、教育活動の改善・充実への有効な連結は図れない。

③ 家庭・地域の役割の明確化

教育は、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たしてこそ万全を期し得るものである。

「外部評価」の実施にあたっては、学校の教育活動への評価とともに、家庭・地域の教育機能のあり様や家庭・地域に何を求めるのかを明らかにし、その達成状況についての学校としての評価や家庭・地域への要請を具体的に提起することが重要である。

実践研究協力校では、「家庭・地域は学校教育に対し、それぞれの役割を果たしている」「家庭は子育ての役割を果たし、学校とともに教育を進めている」「集団登校、持ち物を大切にすることなどへの声かけができていいる」などの項目が設定されている。

また、「アンケート形式」による「外部評価」は、配付と回収という過程のなかで行われ、意思の疎通が図りにくい状況が生じることになる。このため、「評価不能」という評価結果を最小限にとどめる創意・工夫を行うことが不可欠である。

その取組事例としては、次のような方法が考えられる。

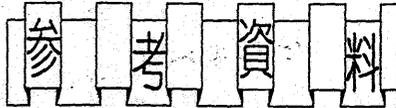
- ① PTAや地域、学校評議員など評価対象者となる方の意見を、評価項目の作成に反映させる。
- ② 「わからない」といった選択肢とその理由を記述する「欄」を設け、次の「外部評価」へ活かしていく。
- ③ その項目についての評価を得ようとしている理由を、保護者や地域の方などに周知する。

(5) 外部評価結果の発信

「外部評価」の結果をはじめ「自己評価」との格差とその格差を生じさせている要因の分析や、また、これらのことに基づいて充実・改善した内容や取組などを広く、家庭・地域に発信していくことが必要である。

そのことが、保護者や地域の方が次の「外部評価」を行うに際しての重要な判断基準の一つとなると同時に、学校教育への関心を高めつつ、家庭・地域の教育のあり方を見つめる契機ともなる。

また、「外部評価」の結果をふまえ、学校の「自己評価」の項目を追加・変更するなどして、両者の運動を目指し、学校評価の取組を推進していくことが重要である。



1 学校評価を求める動き

- (1) 中央教育審議会答申〔平成10年 9月〕 13
「今後の地方教育行政の在り方について」
- (2) 教育課程審議会答申〔平成12年12月〕 14
「児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方について」
- (3) 教育改革国民会議報告〔平成12年12月〕 16
「教育を変える17の提案」
- (4) 中央教育審議会答申〔平成14年 2月〕 17
「今後の教員免許制度の在り方について」

2 京都市立小・中学校 学校評価参考例(案)

- (1) 教育課程の編成と実施に関する自己評価 18
- (2) 教育課程の編成と実施を支える諸条件に関する自己評価 22
- (3) 外部評価 24

3 学校評価システム基本図(案) 26

4 実践研究協力校の取組の概要 27

中央教育審議会答申〔平成10年9月〕 「今後の地方教育行政の在り方について」

第3章 学校の自主性・自律性の確立について

6 地域住民の学校運営への参画

学校が地域住民の信頼にこたえ、家庭や地域が連携協力して教育活動を展開するためには、学校を開かれたものとするとともに、学校の経営責任を明らかにするための取組が必要である。このような観点から、学校の教育目標とそれに基づく具体的教育計画、またその実施状況についての自己評価を、それぞれ、保護者や地域住民に説明することが必要である。

また、学校・家庭・地域社会が連携協力し、相互補完しつつ一体となって子どもの健全な成長を図るため、各学校においては、PTA活動の活性化や学校区内の各地域における教育懇談会の開催などにより家庭や地域との連携が図られている。今後、より一層地域に開かれた学校づくりを推進するためには学校が保護者や地域住民の意向を把握し、反映するとともに、その協力を得て学校運営が行われるような仕組みを設けることが必要であり、このような観点から、学校外の有識者等の参加を得て、校長が行う学校運営に関し幅広く意見を聞き、必要に応じ助言を求めるため、地域の実情に応じて学校評議員を設けることができるよう、法令上の位置付けも含めて検討することが必要である。

また、学校評議員には、学校運営の状況等を地域に周知することなどにより、学校と地域の連携に資することが期待される。

具体的改善方策

(教育計画等の保護者、地域住民に対する説明)

ア 各学校においては、教育目標や教育計画等を年度当初に保護者や地域住民に説明するとともに、その達成状況等に関する自己評価を実施し、保護者や地域住民に説明するように努めること。また、自己評価が適切に行われるよう、その方法等について研究を進めること。

(学校評議員の設置)

イ 学校に、設置者の定めるところにより、学校評議員を置くことができることとする。

ウ 学校評議員は、校長の推薦に基づき教育委員会が委嘱するものとする。

エ 学校評議員は、校長の求めに応じて、教育活動の実施、学校と地域社会の連携の進め方など、校長の行う学校運営に関して、意見を述べ、助言を行うものとする。

(学校評議員の構成)

オ 学校評議員については、学校の種類、目的等に応じて、学校区内外の有識者、関係機関・青少年団体等の代表者、保護者など、できる限り幅広い分野から委嘱することが望ましいこと。

(意見交換の機会の設定等)

カ 校長は、必要に応じて、学校評議員が一堂に会して意見を述べ、助言を行い、意見交換をする機会を設けるなど運営上の工夫を講ずること。

教育課程審議会答申〔平成12年12月〕

「児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方について」

第4章 教育課程の実施状況等から見た学校の自己点検・自己評価の推進（抄）

ア 各学校が、児童生徒の学習状況や教育課程の実施状況等の自己点検・自己評価を行い、それに基づき、学校の教育課程や指導計画、指導方法等について絶えず見直しを行い改善を図ることは、学校の責務である。

イ 各学校が行う自己点検・自己評価の内容としては、教育課程の編成状況・実施状況、指導方法や指導体制の工夫改善の状況、児童生徒の学習状況等があるが、具体的な項目、方法等は、各学校や設置者が地域や学校の実態に応じて適切に工夫する必要がある。

ウ 各学校における自己点検・自己評価に当たっては、学校評議員制度を活用することなどにより、結果を保護者や地域の人々に説明することが重要である。また、点検・評価の実施に当たっても、保護者や地域の人々の声を参考に進めることが大切である。

エ 今後、各学校における自己点検・自己評価が適切に行われるよう、関係機関において自己点検・自己評価の内容、方法、公表の在り方等についての研究開発を進めることが必要であり、それらに基づく各学校での実践を進めることが期待される。

(1) 各学校が、適切な教育課程を編成・実施した上で、児童生徒の学習状況や教育課程の実施状況等について自己点検・自己評価を適切に行い、それに基づき、学校の教育課程や指導計画、指導方法等について、絶えず見直しを行い改善を図ることは、学校の責務であり、極めて重要な課題である。各学校が自己点検・自己評価を行うことは、学校の自主性・自律性の確立と学校の経営責任の明確化にも資するものである。

各学校が、児童生徒の学習状況についての学校全体の状況を自己点検・自己評価することは、各学校の行った目標に準拠した評価の結果を点検・評価することになり、それを通じて各学校は、目標に準拠した評価の客観性や信頼性を高めることが必要である。

(2) 各学校における教育課程の実施状況等の自己点検・自己評価は、各学校の教育目標等に照らし、校長の責任の下に行うものであるが、具体的にどのような項目をどのような方法で評価するかについては、それ自体が各学校の特色になるとも考えられ、各学校や設置者が地域や学校の実態に応じて適切に工夫する必要がある。

以下（略）

(3)(4) 略

(5) 各学校において教育課程の実施状況等の自己点検・自己評価を進めるに当たっては、学校を地域に開かれたものとし、家庭や地域社会との連携を深めるという視点が重要である。新しい学習指導要領等では、「総合的な学習の時間」が創設されるなど特色ある学校づくりが求められており、教育活動の計画や実施の場面において保護者や地域の人々の協力を得ることや、学校の特色を保護者や地域の人々に説明するなど、開かれた学校づくりを一層進める必要がある。

このような観点から、自己点検・自己評価の実施に当たっては、学校評議員制度を活用することなどにより、保護者や地域の人々の声を参考に進めるとともにその結果を、保護者や地域の人々に説明し、意見を聞き、その後の教育課程の編成や指導の改善に反映させ、保護者や地域の人々の協力を得て教育活動を展開していくことが、必要である。

なお、自己点検・自己評価の公表については、地域や学校の実情に応じて、各教育委員会等においてその在り方を検討することが望ましい。また、公表に当たっては、序列化などの問題が生じないよう、十分留意する必要がある。

以下（略）

4. 新しい時代に新しい学校づくりを(抄)

◎地域の信頼に応える学校づくりを進める

学校、特に公立学校は、努力しなくてもそのままになりがちで、内からの改革がしにくい。地域で育つ、地域を育てる学校づくりを進める。単一の価値や評価基準による序列社会ではなく、多様な価値が可能な、自発性を互いに支え合う社会と学校を目指すべきである。

提言

- (1) 保護者は学校の様々な情報を知りたがっている。開かれた学校をつくり、説明責任を果たしていくことが必要である。目標、活動状況、成果など、学校の情報を積極的に親や地域に公開し、学校は、親からの日常的な意見にすばやく応え、その結果を伝える。
- (2) 各々の学校の特徴を出すという観点から、外部評価を含む学校の評価制度を導入し、評価結果は親や地域と共有し、学校の改善につなげる。通学区域の一層の弾力化を含め、学校選択の幅を広げる。
- (3) 学校評議員制度などによる学校運営への親や地域の参加を進める。良い学校になるかどうかはコミュニティ次第である。コミュニティが学校をつくり、学校がコミュニティをつくる。
- (4) 親が学校の活動やPTA、地域の教育活動に時間を取れるようにするなど、企業も協力する。

4 教員の資質向上に向けての提案

(3) 信頼される学校づくりのために

信頼される学校づくりには、学校は保護者や地域住民に積極的に情報を公開し共通理解を得る努力が不可欠である。このため、校長や教員には説明責任を果たす力量の向上が不可欠であるが、このような力量は、組織としての学校づくりを進める中、主に日々の職務によって形成し得るものであり、また、学校が日常的に地域に開かれ、外から常に観られる環境にあることも必要である。したがって、学校と学校外との双方向のコミュニケーションを拡充することが必要であり、次のようなことが求められる。

① 学校からの情報提供の充実

学級担任には、学校及び学級の教育目標、授業の進め方や子どもたちの様子、これらの教育成果等について保護者に十分説明し、保護者の意向も把握しつつその理解を深める日常的な努力が極めて重要である。このような教員の努力を支援する校長のリーダーシップに期待するとともに、教員一人一人は、このような説明責任を果たす力量の向上が必要である。

② 授業の公開の拡大

保護者や地域住民の学校への理解を深め、その信頼が得られる学校づくりには、予定された日時ではなく、いつでも保護者や地域住民が観にこれるよう、授業の公開を拡大していくことが最も効果的な方策である。

③ 学校評議員制度等の活用

地域住民等が学校運営に参画する仕組みである学校評議員制度等については、その設置が一層促進されることが望ましい。また、校長は学校評議員に対し学校の活動状況等について十分説明を行って、学校の教育方針・教育目標や成果についての共通理解を図るとともに、学校運営に対する提案や提言をもらうよう運営されることが必要である。

④ 学校評価システムの確立

学校と学校外との双方向のコミュニケーションの成立を確実にするため、学校の自己点検・自己評価の実施とその結果を保護者や地域住民等に公表する学校評価システムを早期に確立することを提言する。各都道府県教育委員会等において、学校や地域の実情に応じた評価を行うための具体的方策について、先進的な取組を参考にしつつ、調査研究を進め、自己点検・自己評価の実施とその結果の公開の進展に併せ、外部評価が加味され、外部評価の導入へと段階的に進めていくことが求められる。

⑤ 新しい教員評価システムの導入

教員がその資質能力を向上させながら、それを最大限発揮するためには、教員一人一人の能力や実績等が適正に評価され、それが配置や処遇、研修等に適切に結びつけられることが必要である。このため、各都道府県教育委員会等において教員の勤務評価について、公務員制度改革の動向を踏まえつつ、新しい評価システムの導入に向け、早急に検討を開始することを提言する。

京都市立小・中学校 学校評価参考例(案)

各校は、それぞれの特色ある学校づくりの取組や子どもの実態に応じて、独自の具体的な評価項目を作成すること。この参考例(案)は評価項目を作成するに際しての基本的な考えを示しているものである。

1 教育課程の編成と実施に関する自己評価

評価対象	視点	総括	教職員のかかわり	子どものかかわり
1 学校教育目標の設定と実現	実態把握	子どもや家庭・地域の実態を十分に把握し、子どものよさや個性を生かす内容になっていますか	教育目標の設定理由、内容を十分に共通理解していますか	
	重点目標	学校教育目標に即した内容・わかりやすい表現になっていますか	重点目標の設定理由、内容について共通理解していますか	
	学年・学級目標	学校教育目標の実現に向けた課題を具体化したものとなっていますか 学年・学級目標は、子どもが実践可能な内容になっていますか	学年・学級目標をふまえた経営案や指導計画を編成していますか	
2 教科の指導	年間指導計画実施計画	指導目標・内容・時期は学習指導要領の趣旨を実現する計画になっていますか	指導目標・内容・時期等を共通理解し年間指導計画を作成していますか	
	基礎基本の内容の徹底	生きる力につながる基礎基本の内容の指導が、明確になっていますか	基礎基本の内容について共通理解していますか	一人ひとりの子どもに基礎基本の内容が、身に付いていますか
	指導法の工夫	一人ひとりの子どものもつ個性や可能性を伸ばす学習を展開していますか 一人ひとりの子どもに基礎的基本的な内容の徹底が図られていますか	子どもの実態にあった体験的な活動を計画し、実践していますか 子どもの問題解決に向けた考えを大切にした指導を行っていますか	一人ひとりの子どもが自ら進んで意欲的に学習し、充実感を味わっていますか 方法を工夫しながら問題解決に向けて学習していますか

評価対象	視点	総括	教職員のかかわり	子どものかかわり
3 道徳の指導	年間指導計画実施計画	指導目標・内容・時期は子どもの実態を踏まえ、学習指導要領の趣旨を実現する計画になっていますか	指導目標・内容・時期等を教職員は共通理解し年間指導計画を作成していますか	
	豊かな体験を通じた道徳性の育成	子どもの様々な体験を生かした指導の充実に向け、家庭や地域の協力を得ていますか	望ましい道徳性を育てるために、豊かな体験が大切であることを共通理解していますか	体験を生かした道徳の学習に子どもは意欲的に取り組んでいますか
	道徳的価値の自覚を深める指導	道徳的価値の自覚を深める指導の充実に向け、家庭・地域の協力を得ていますか	道徳的価値の自覚を深める指導を充実する創意・工夫を行っていますか	子どもが、道徳の時間に自分のもつ価値を振り返る取組をしていますか
	道徳的実践力の育成・実践を促す指導	道徳教育全体の調和を図りながら道徳的実践力を高める指導をしていますか	道徳的実践を促す指導を教育活動のなかで位置付けていますか	子どもに、道徳的心情や判断力等が育ち、道徳的実践力が身に付いてきていますか
4 特別活動の指導	年間指導計画実施計画	指導目標・内容・時期は子どもの実態を踏まえ、学習指導要領の趣旨を実現する計画になっていますか	指導目標・内容・時期等を教職員は共通理解し年間指導計画を作成していますか	
	個性やよさを生かした指導の展開	個性や可能性を生かした活動の意義を理解し、家庭や地域の理解を得る取組を進めていますか	子どもが個性や可能性を発揮するのにふさわしい支援を行い、その活動を積極的に評価していますか	活動をとおして自尊感情を高めるとともに、友だちのよさを認めようとする姿勢が育っていますか
	自主的・実践的な態度の育成	自主的・実践的な活動の場を確保し、活動の成果を家庭や地域にも知らせていますか	子どもの自主的・実践的な活動に対して、関心・意欲を重視し適切な支援を行っていますか	子どもは集団の一員としての自覚を持ち、意欲的に課題を解決しようとしていますか
	体験的な活動の重視	年間指導計画や毎時の指導に体験的な活動を意図的に取り入れようとしていますか	体験的な活動を取り入れること教職員は共通理解していますか	一人ひとりの子どもは、体験的な活動を通して充実感や成就感を味わっていますか

評価対象	視点	総括	教職員のかかわり	子どものとのかかわり
5 総合的な学習の時間	年間指導計画	学習指導要領の趣旨を生かし、子どもの発達段階にあった指導計画になっていますか	子どもの興味・関心・ねがいや地域の教育資源等を生かした指導計画を共通理解していますか	子どもの興味・関心・ねがいを生かした指導計画になっていますか
	指導の工夫	各教科で培われた基礎基本の内容をもとに、自ら課題を見つけ考え、解決する資質や能力を育てる活動を行っていますか 子どもの興味・関心を生かし、問題解決的な学習になっていますか	地域や学校、子どもの実態を踏まえ、創意工夫を生かした教育活動に努力していますか 子どもの意欲を高め問題解決的な学習になるよう支援していますか	子ども自らが、意欲的に問題解決を図る学習となっていますか
6 選択履修	年間指導計画	子どもの興味・関心・ねがいを生かした年間指導計画になっていますか	選択履修の幅の拡大が図られ、適切な選択教科の指導を展開していますか	
	指導の工夫	子どもの個性やねがいが生かされる指導の工夫がされていますか	子どもの個性やねがいが生きる指導の工夫についての共通理解が図られていますか	子どもは、選択授業について意欲的に取り組み、充実感を味わっていますか
7 学校行事	年間指導計画	学校の特色・地域の特色を考慮し、子どもが興味・関心を持ち、積極的に参加する年間指導計画になっていますか	子ども・地域の実態から自主的・実践的な活動について共通理解していますか	
	実施の状況	学校の特性や地域の特色を生かして学校行事が実施されていますか	子どもたちが興味・関心を持ち積極的に参加できるよう適切な指導が行われていますか	子どもは学校行事に興味・関心をもって、積極的に参加していますか

評価対象	視点	総括	教職員のかかわり	子どものとのかかわり
8 生徒指導 進路指導	生徒指導の充実	学年相互・学級相互に密接な連携を保ち、早期課題解決のための校内体制が確立されていますか	カウンセリングマインドをもって子どもに接する取組の意義・内容について共通理解していますか	子どもは教職員に、気軽に相談していますか
	連携	校外における専門的な教育機関や他校種等と連携を図りながら子ども理解を深めていますか	家庭・地域との連携を図りながら、一人ひとりの実態をふまえた指導を行っていますか	担任の他にも、相談していますか
	進路指導	進路指導の系統的な指導を進める校内体制が確立されていますか	子ども・家庭の理解を図りながら進路指導に当たっていますか	子どもは、自分の個性を発揮し、自己実現への意欲を示していますか
9 評価	実施の方法	評価の在り方が共通理解され、教育活動全般について評価が行われ、次の計画に生かしていますか	評価の観点や基準を共通理解していますか	子どもは、評価が励みになっていますか
10 特色ある教育活動	年間実施計画	子どもたち実態や地域の特色をふまえた年間指導計画になっていますか	子どもたちの実態や地域の特色について共通理解していますか	子どもの実態にあった指導計画になっていますか
	指導の充実	子どもたち実態や地域の特色等を生かした内容の重点化が図られていますか	地域の特色を生かした活動を意図的に取り入れた指導を行っていますか	子どもは、特色ある取組について理解し積極的に参加していますか

2 教育課程の編成と実施を支える諸条件に関する自己評価

評価対象	視点	総括	教職員のかかわり
1 経営・組織	経営方針	経営方針が、教育活動に反映され、子どもの姿に姿がみられますか	教育目標達成のための方策を共通理解し、その達成に向けお互いに協力していますか
	校務分掌	教育課題の解決に向け分掌内容が明確化され、具体的な活動になっていますか	各分掌の役割を理解し、その遂行に向けて意欲的に取り組んでいますか
		教育課題を解決するため、組織的に機能していますか	各分掌の遂行に当たって教職員相互の連絡・調整を図っていますか
	学年学級経営	教育目標に基づき、子どもの実態にあった学年・学級経営になっていますか	共通理解をし、教員と子どもたちの関係、子どもたち相互の関係を把握し、随時、学年・学級経営について見直しながら問題解決に努めていますか
各種会議委員会	情報交換と課題検討の場として、有効に機能していますか	委員会・部会の目的・性格が教職員に共通理解され、相互の連絡・調整が図られていますか	
2 研究・研修	校内	研究・研修のねらいや方法を明確にして研究活動に取り組んでいますか 研究や研修の組織が確立しており、計画的に実施されていますか	学校内で他の教員の授業をみる機会が多く、授業法について検討する機会を積極的に設け、子どもの学習に反映していますか
	校外	校外での研究・研修が計画的に実施され、自校の研究に反映させていますか	校外における研究会や研修会に積極的に参加し、指導力と実践力の向上に努めていますか
3 開かれた学校	家庭・地域	子どもの課題を共有するため、校内体制を整え、組織的に「学校を開く」取組を進めていますか	家庭・地域の連携・協力の意義を共通理解し、積極的に家庭・地域にかかわっていますか
	評議員	評議員の意見を共通理解し、積極的に活かそうとしていますか	評議員の意見を、積極的に自己の取組に活かそうとしていますか
	他校種	子どもの理解を深めるため、他の校種との連携が計画的に図られていますか	他の校種との連携についての必要性を共通理解し、積極的な連携に努めていますか
	他機関	子どもの実態・課題把握と課題解決に向け、関係諸機関との連携を図っていますか	関係諸機関との連携を図るための情報交換の方法について共通理解し、積極的に活用していますか

評価対象	視点	総括	教職員のかかわり
4 家庭への働きかけ		家庭の果たすべき役割と課題についての共通理解が図られていますか	個々の家庭の教育上の課題を把握し、親との話込みを行っていますか
		子どもたちの課題を説明し、その課題に向けた家庭の役割を提案していますか P T Aとともに家庭教育を高める取組を進めていますか	保護者がP T A活動や地域の活動に協力するよう働きかけをしていますか 家庭学習や読書の習慣が定着するよう具体的な課題提起を行っていますか
			「基本的生活習慣」が定着するよう親との話込みを行っていますか
5 地域への働きかけ		地域の果たすべき役割と課題についての共通理解が図られていますか 学校と地域が連携し、子育ての支援が広がる取組ができていますか	
		子どもと大人がふれあう場としての地域行事の実施を提案していますか 子どもが、企画・運営から地域行事に参加するよう提案していますか	保護者や地域の方が地域行事に積極的に協力するよう働きかけていますか 子どもが進んで地域での活動に参加する意義を理解し、地域が家庭や子どもへ働きかけるよう働きかけていますか
6 出納・経理	予算編成執行	前年度の予算執行の評価が、今年度の年間執行計画の立案に活かしていますか 教育目標達成のため、予算編成や執行が計画的・的確にできていますか	予算の編成や執行について共通理解が図られ、適切に処理されていますか
7 施設・設備	校舎	学習効果を高めるための視点から、子どもが活用しやすいよう配慮していますか 地域にも積極的に活用されるよう、配慮していますか	教職員がそれぞれ役割分担し、効果的に活用するとともに、日常的に点検し、適正な管理をしていますか
	教材・教具	各教科の指導計画に基づいて、教材・教具を有効・適切に整備・管理・活用していますか	教職員が役割分担し、協力して整備・管理に当たっていますか

3 外 部 評 価

評価対象	評価者		地 域 の 方 学 校 評 議 員
	観点	保 護 者	
1 学校教育目標	設 定	学校教育目標は、子どもや保護者のねがいを踏まえたものとなっている	学校教育目標は、子どもや、地域のねがいを踏まえたものとなっている
	実 態	学級・学年目標は、子どもの実態を踏まえたものになっている 学校は、教育方針をわかりやすく伝えている	学校は、教育方針をわかりやすく伝えている
2 各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間	実 態	子どもは、毎日楽しく学校へ行っている 子どもは、授業が楽しくわかりやすいと言っている	
	生 指	子どもは、学級は楽しいと言っている 子どもには、仲のいい友達がいる 子どもには、相談できる先生がいる	子どもは、地域で多くの友だちと活動したり、遊んだりしている
	道 徳	子どもは、進んであいさつが出来る	子どもは、積極的にあいさつをしたり、礼儀正しい態度がとれる
	総 合	子どもは、自分で調べたり、粘り強く問題を解決したりしようとしている	子どもは、自分で進んで調べたり、学習したりしている
	特 活	子どもは、進んで学級や係の仕事をしている	子どもは、進んでボランティア活動をしている
3 特色ある取組	実 態	子どもたちや地域の実態をふまえた特色ある取組をすすめている	子どもたちや地域の実態をふまえた特色ある取組をすすめている
4 組織と運営	実 態	教職員は、子どもと一緒によく活動している	教職員は、子どもと一緒によく活動している
		子どもにわかりやすい、工夫した授業が行われている	子どもは元気よく授業に参加している
	組 織	教職員間の連携がよくとれている	

評価対象	評価者		地 域 の 方 学 校 評 議 員
	観点	保 護 者	
5 開かれた学校	実 態	学校だよりや学年・学級だよりで学校のことがよくわかる 授業参観・懇談会の開催は、適当である	学校だより等で学校の取組がよくわかる 学校は、学校参観をよく設けている
		学校には、気軽に相談できる先生がいる	学校には、行きやすい雰囲気がある
		教職員は、家庭訪問や地域の行事に積極的に参加している	教職員は、地域行事に積極的に参加している
6 施設・設備	実 態	学校は、事故防止等安全によく配慮している 施設・設備は整理・整頓されている	学校は、子どもの安全についてよく配慮している 施設・設備は、よく整理・整頓されている
7 評 価		通知票は、子どもの個性や努力がわかりやすく記述されている 通知票は、子どもの学習状況や達成度がわかりやすく記述されている	
8 家庭・地域の役割	活 動	地域での活動に子どもたちと参加している PTA活動や地域での活動に進んで参加・協力している	地域での行事により多くの子どもや地域の方が参加できるよう工夫をしている 学校教育活動や地域行事に進んで参加・協力している
	子 育 て	家庭学習や読書の習慣が身に付くような環境づくりに努めている 子どもとのふれあいや対話を持つよう努力している	子どものいる家庭へ積極的に声かけをするなど地域全体で子育てを支えている
		「基本的生活習慣」が身に付くように努力している 家族で家庭の役割を決めている	子どもたちの健全育成を目指して、あいさつや声かけを地域ですすめている
	連 携	授業参観や懇談会に参加している。 学校の教育方針・目的を理解し、家庭の教育をすすめている	

学校評価システム基本図（案）

実践研究協力校の取組の概要

「21世紀の学校づくり推進校」の中から、学校評価を積極的に取り組んでいる学校（小学校5校・中学校2校）を実践研究協力校として指定し、平成13年12月末時点での取組状況をまとめた。

A 小学校

計画・説明・実践・評価 流れ	自己評価	外部評価
前年度学校評価をもとに		
計画 学校教育計画作成 ・学校教育目標 ・目指す子ども像 ・学年・学級目標 ・学年・学級子ども像 ・特色ある学校づくり ・重点目標・課題設定		
説明 保護者 --- PTA総会 地域の方 --- 学級懇談会 学校だより 評議員 --- 評議員の集い		保護者・地域・評議員 (説明に対する評価)
実践 1学期の教育計画 1学期の実践・取組 学校公開（自由参観） 1学期末の評価	学校行事 -- 終了後に協議 学校経営 ----- 校長 学級経営 ----- 学級担任 校務分掌 ----- 各主任 教育活動全般 -- 職員協議	保護者・地域・評議員
実践 2学期の教育計画 2学期の実践・取組 学校公開（自由参観） 研究報告 懇談会 --- 2学期末の評価	学校行事 -- 終了後に協議 学校経営 ----- 校長 学級経営 ----- 学級担任 校務分掌 ----- 各主任 教育活動全般 -- 職員協議	保護者・地域・評議員
実践 3学期の教育計画 3学期の実践・取組 学校公開（自由参観） 3学期末の評価	学校行事 -- 終了後に協議 学校経営 ----- 校長 学級経営 ----- 学級担任 校務分掌 ----- 各主任 教育活動全般 -- 職員協議	保護者・地域・評議員
評価 年間評価 今年度学校教育活動の総括及び次年度の計画の説明 ・PTA総会 ・学校評議員の集い ・学校だより	年間教育活動自己評価 -- 職員 (観点別) 校長による教職員との個人懇談	保護者・地域・評議員
次年度の学校教育計画にいかす		

ね	①教育活動の改善を明確にし、学校教育の一層の充実を図る
ら	②PTAや地域の評価を取り入れ、「開かれた学校づくり」をさらに進める。
い	
取	[自己評価] ①昨年の評価結果を基に、各分掌で本年度の重点的な取組に関する評価項目を作成する。 ②各学期ごとに自己評価（アンケート形式）する。教務部が集計し、各部で取組の進捗状況を明らかにする。その結果を校内研修で共通理解し、次学期の取組に生かす。
組	
の	[外部評価] ①日曜参観や地域の会（連合会長会）、PTAの役員会などを通して学校の基本方針を説明し、意見を聞く。 ②1学期の参観日にアンケート形式で外部評価を行い、その結果を分析・考察し全保護者に「学校だよりの評価特集号」で知らせる。 ③内容によっては、学級懇談会のテーマとして取り入れる。 (例) 今後の教育改革で学力は低下しないのか。 完全学校週5日制での子どもの過ごし方について。
概	
要	
校	各分掌や委員会が中心となり、評価項目を作成する。評価結果は、教務部で集計・分析を行い、校内研修で取組の進捗状況についての共通理解を図り、課題を明らかにする。
内	
体	
制	
成	[成果] ①学校評価は各学期ごとに実施することにより、課題がより明らかになり、年度途中での素早い改善が容易になるなど具体的な実践に結びついた。 (例) 外部評価の結果「子どもの体力のなさが気になる」の声が多くあり、自己評価においても課題になっていた。このため持久走を帯時間の中に位置づけ取り組んでいる。 ②記名式で自己評価をすることにより、教職員一人ひとりが主体的に取り組めるようになった。 ③外部評価により、保護者や地域の期待・願いが具体的に知ることができた。また学校への関心も一層高まってきた。
果	
と	
課	
題	[課題] ①分析、検討、取組への修正に時間が取りにくい。 ②評価項目や評価内容に見合った評価方法の工夫が必要。

B 小学校

ねらい	<p>①教職員の意識改革を図り、学校組織の改革を推進する。</p> <p>②外部評価を通して子どもを多面的に捉えるとともに、保護者や地域の願いを学校運営に反映させる。</p> <p>③学校・家庭・地域が子どもの課題を共有することで、お互いの責任を自覚し、それぞれの役割を果たす。</p>
取組の概要	<p>[自己評価]</p> <p>①学校評価に関する研修会を実施し、学校評価や評価結果公開の意義についての共通理解を図り、全教職員が自己評価（2学期中間と学年末）を実施する。</p> <p>②集計・分析をし、課題については研修会で共通理解を図る。</p> <p>③自己評価票に「改善案」の項目を設け、主体的な参画意識がもてるようにする。</p> <p>[外部評価]</p> <p>①昨年度の外部評価の試行を基に、アンケート項目の検討を行う。</p> <p>②今年度も、参観日ごとに（年7回）、同じ評価項目で評価を実施する。さらに年度末には、分析したものを「学校だより」や評議員の集まりで公開する。</p>
校内体制	<p>①教務部が自己評価や外部評価の原案を企画・立案し、企画委員会で検討を加え、職員会議で共通理解を図る。</p> <p>②集計は、教務部が行い、分析や課題解決への取組は、各校務分掌で具体化する。</p>
成果と課題	<p>[成果]</p> <p>①外部評価により授業を評価される機会が増え、授業改善が加速される。</p> <p>②教職員は、自己評価の項目をより具体的に設定することにより、教職員はその内容を自分の課題として捉えることができた。</p> <p>（例）研究の取組を充実させるため、研究委員会は計画的に行われたか。</p> <p>③保護者がどのような視点から授業を見ているかが明らかになるとともに、課題となった点について、教職員は説明する必要があると感じ始めている。</p> <p>（例）参観授業に先だって、前時の流れから本時のねらいがあることを説明するなど工夫を行った。</p> <p>④自分の子どもの様子だけでなく教員の授業内容や学級全体の様子、他の子どもの言動にまで保護者の参観の視点が広がった。</p> <p>[課題]</p> <p>①地域の実態・子どもの課題に応じた評価内容に厳選する必要がある。</p> <p>②組織的な分析を通して、それぞれの分掌で活用を図ることが大切である。</p> <p>③各個人の評価力量を高める必要がある。</p>

C 小学校

ねらい	<p>①学校がどの程度機能しているかを見定め、改善策を明確にする。</p> <p>②自己評価をより客観的なものにするため、外部の評価を行う。</p>
取組の概要	<p>[自己評価]</p> <p>①学校評価の意義について教職員の共通理解を図る。</p> <p>②昨年度の評価をもとに、本年度の学校組織を決定し、「評価項目」や「判断基準」を共通理解する。</p> <p>③各学期末に「学級経営自己評価」（記述式）を次の分担により実施する。 学校運営（校長） 学級経営（教員） 校務分掌（各主任）</p> <p>④学年末には、全教職員が「個人の観点別評価」（アンケート形式）を実施し、校長の指導を受けるなかで、指導力の向上につなげる。</p> <p>[外部評価]</p> <p>①4月当初、校長がPTA総会や「学校評議員の集い」にて学校教育計画を説明する。</p> <p>②1・3学期の「学校公開」や2学期の「研究発表会」を通して、保護者や地域、評議員の方によるアンケート形式の評価を実施する。</p> <p>③学年末に、全保護者へ観点別（アンケート形式）の学校評価票を配布し、評価していただく。評議員には「評議員の集い」にて、趣旨を説明し評価を実施する。</p>
校内体制	<p>「教育活動評価委員会」を組織する。「学校評価」については、校長が原案を作成し、教頭・教務主任に意見を求め、職員会で共通理解を図る。</p>
成果と課題	<p>[成果]</p> <p>①毎学期、学校・学級経営や分掌の仕事を自己評価することにより、各自の責任と自覚が高まった。</p> <p>②外部評価の結果、学校に対する保護者や地域の期待やねがい、また学校としての責任がより明確になった。</p> <p>（例）保護者は、一番に基礎基本の定着を求めている。 教職員の熱意ある教育姿勢が求められている。</p> <p>③各学期ごとに実施することにより、教育活動の計画—説明—実践—評価のサイクルが、より生きたものとなった。</p> <p>[課題]</p> <p>「観点別の外部評価」では概括的であり、評価する方によっては焦点が絞りにくかった。</p> <p>（例）「教職員の熱意」の項目は、個人の熱意を評価するのか、学校の全体的な熱意なのか答えにくい。</p>

D 小学校

ねらい	①子どもたちの学校生活を生き生きと楽しいものにし、学級経営や授業の改善・充実に生かす。 ②保護者や地域の願い・期待を知り、より「地域に開かれた学校づくり」を進める。
取組	[自己評価] ①学校評価についての研修会を持ち、具体的な評価項目を基に学校評価の意義を共通理解する。 ②学期末に各学級は「学級経営自己点検票」を基に自己評価を行う。
概要	[外部評価] ①1月の「土曜参観日」を利用し、保護者に学校評価アンケートを実施する。 ②3学期に、全児童に「よりよい学校をめざして」のアンケートを実施する。 ③1月の「学校評議員の集い」で、評価（アンケート含む）結果をもとに懇談を行い、意見を伺う。
校内体制	①校長が中心となり「評価項目」と「判断基準（4段階）」の原案を作成し、企画委員会で検討し職員会議で共通理解を図る。 ②実施後、集約は教頭が行い、校長・教頭・教務主任で分析し職員会議で改善策を協議する。
成果	[成果] ①保護者によるアンケートでは、保護者の教育への願いとそれに応えるための課題が明らかになった。 （例）「丁寧な授業」「子ども主体の授業」「興味関心意欲のもてる授業」「学年ごとの基礎基本をきっちり身につける授業」等が強く求められている。 ②家庭との連携においては、「たより」だけでは不十分であり、直接の会話が求められている。また懇談会も学校側の一方向的な話になっている等反省させられた。
課題	[課題] ①子どもによるアンケートの結果を、学級担任の自己評価と併せて分析し、学級経営の改善をしていく必要がある。 ②学校評価を全職員が主体的に取り組めるよう、学校評価の意義についての研修が今後も必要である。

E 小学校

ねらい	①学校から地域に本校教育の取組を発信する指針とする。 ②教育内容や教育活動をより「開かれた」ものにする。 ③保護者や地域のなかで「育てたい子ども」の姿を共有する。
取組	[自己評価] ①「児童の学習の状況」「指導の状況」「教育課程の実施状況」「実施を支える諸状況」等について、各学期末に全教職員が記述式で自己評価する。また年度末には「評価票」を作成し実施する。
概要	[外部評価] ①外部評価は、できるだけ幅広く多様な声を反映させるため、日曜参観や人権啓発参観・懇談日にアンケート形式で実施する。 ②評価項目に「教員の指導や子どもの学習活動」「教育目標と教育計画」「育てたい子ども像と本校の研究について」「家庭との連携、地域との連携」についての項目を重点に、評価をしていただく。また、親として・地域として、何をするのか、できるのかを一緒に考えていける項目も含める。 （例）家庭は子育ての役割を果たし、学校に協力している。家庭においても、学習・生活・遊びのプログラムができている。
校内体制	「開かれた学校づくり」を推進する担当者を組織し、そこを核として進める。
成果	[成果] ①外部評価者の学校教育に対する期待や願い「子どもは落ち着いて授業を受けている」「発言する子が限られている、手を挙げていない子への手だてを取って欲しい」「子どもの話をゆっくり聞いて欲しい」「学級の様子をもっと知りたい」等、具体的に分かり、取組の改善に生かしやすい。 ②学校からの情報量が多いと、評価者の受けとめや評価に対する意識も高まり、声を生かしやすいことが分かった。 ③実施した結果の報告は迅速に行うと効果的である。
課題	[課題] ①評価項目の内容と、協働体制づくりに向けての発信内容との関連を整理し次年度に活用できるようにしておく必要がある。 ②できるだけ幅広く保護者や地域の方から評価していただき、課題となった点を、謙虚に受け止め、教育活動の充実・改善に素早く生かす必要がある。 ③教職員の資質向上にかかわる評価項目の結果をふまえ、教職員の意識改革に活かしていく必要がある。

A 中学校

ねらい	<p>①学校活動のすべての領域にわたる教育目標の具現化に向けて、学校がその教育的機能をどの程度果たしているのかを、客観的且つ総合的に判断し、課題と改善すべき点を明らかにして、より適切な学校教育活動を実現する。</p> <p>②学校評議員の方々の外部評価を通して、地域の声を学校経営に反映し、今後の学校改善に資する。</p>
取組	<p>①学校評議員制度の実施、学校だよりの地域回覧、「生き方探究・チャレンジ体験」推進事業などを中心として、地域と結ばれた学校づくりを推進している。</p> <p>②学校評価に関する年間計画を作成する。</p>
概要	<p>[自己評価] 1月～2月に全教職員に自己点検アンケートを実施。</p>
概要	<p>[外部評価] ①年度当初に立ち上げた学校評議員の方々に外部評価をしていただくために、評価項目を検討し、評価基準、判定基準を作成する。 ②2月6日にアンケート形式で学校評議員の方々による評価を実施し、考察する。</p>
校内体制	<p>①校内の組織化はしていないが、学校評議員対象の評価項目、評価基準などは校長が作成し、評価結果の考察は教頭・教務主任に意見を求めつつ校長が行う。</p> <p>②次年度は学校評価の質的充実を図るために実効性のある学校評価委員会（仮称）を組織する。</p>

B 中学校

ねらい	<p>①学校教育活動の成果と課題を明確にするとともに課題解決への取組や授業改善・組織改革を図り、地域に信頼される学校づくりを推進する。</p> <p>②外部評価を通して実態把握と課題確認を客観的におこない、保護者や生徒の願いを学校運営に反映させる。</p> <p>③学校、家庭、地域が生徒の具体的な姿を通して共通理解を図り、連携と協力を基盤としつつ生徒のよりよい成長にむけたそれぞれの責任と役割を果たす。</p>
取組	<p>①学校評価に関する年間計画を作成する。</p> <p>②年度当初に全教職員に学校評議員制度、学校評価の意義とねらいについて校長から説明し、共通理解を図る。</p>
概要	<p>[自己評価] 1月24日～2月21日に全教職員に自己点検アンケートを実施。</p>
概要	<p>[外部評価] ①7、8月に外部評価について検討。（だれに、いつ、どんな評価、結果をどう生かすか。アンケート項目の検討など。） ②2月に外部評価アンケートの実施。 保護者対象→PTA運営委員対象に実施。次年度は、全校保護者に実施予定。 生徒対象→生徒会役員対象に実施。座談会で要望・意見を聴取。 ③学校評議員に保護者・生徒対象のアンケート結果を示し、意見を伺う。</p>
校内体制	<p>本年度は校長を中心に、教頭・教務主任が原案を企画・立案し、運営委員会で検討の上、職員会議で共通理解を図り実施する。次年度は、校内組織を立ち上げ対象の拡大と集計・分析結果を各校務分掌での課題解決への取組に生かす。</p>